

## ○7番（古川盛義君）〔登壇〕

今議会の一番最後、22番目でございます。頑張ってやりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

本日は、公立中学校5校で582名の卒業生が卒業されました。本当におめでとうでございます。

そこでまず、ことし2月14日に「世界一飛龍窯灯ろう祭り」というのが開催されまして、大盛況のうちに終わることができました。昨年、実は武内が渋滞でどがんとしゅうでんなかったと申し上げましたら爆笑をいただいたんでございますが、またことしも上り下り、とにかく大混雑になりまして、夜遅くまで帰りたい人が帰れない、入りたい人が入れないというふうな状態が続きました。これもうれしい悲鳴でございます。大田副市長を先頭に、市の当局はもちろんのこと、武雄古唐津協同組合、それから市内の窯元の皆さん、武内の区長会、自治公民館長会、消防団、いろんな団体の協力を得て開催できたわけでございます。この場をもちまして厚くお礼を申し上げます。

私、今回初めて市民病院の問題を質問させていただきます。

私、5年ちょっと前、武内に病院をとということで、大学病院で私が知っているところというのは久留米大学だけしかございませんので、久留米大学の理事長に「医者を探してくい」と言うてまいりました。「医者はおらんぞ」と開口一番言われました。「何でや」と言いましたところ、「うちの学校の卒業生は幾ら授業料ば払うて卒業しようか知っとっとか」と言われました。「知んもんね」と言うて話をしましたところ、普通一般に6年間、当たり前前に卒業して――診療科目でちょっと違うそうです。ですが、平均して1億円超すと。「そいぎ、国立大学は」と言いましたところ、「2,000万円から3,000万円じゃろう。おいはゆうっと知らん」と言んさったです。そういうふうにして卒業した医者がインターンをして、「インターンのときの給料幾らや」と聞きました。「七、八万円ぐらいやろう」と。そして、土日病院に研修に行って――研修というか、当番医ですね、に行ってちょっと稼いで生活をするという時代が四、五年続くだろうと。そして、大学病院でまたやって、そして一人前になるんだと。通常卒業してから10年かかると。そういう話でございました。

その久留米大学でそうして育てた医者を、「簡単にほいっと出されんもん。うちが要る」と言われました。「そいぎ、よそは。よそもちょっと紹介ばしてくんしゃい」ということで、長崎大学とか佐賀医大はもちろんでございます。九州大学、それから熊本大学、福岡大学、産業医大、それから大分大学と7つ紹介をいただきました。私、回りました。すべて断られました。何の取っかかりもございませんでした。だけど、運よく武内に地域医療をやろうという中川内先生にお会いできて、そして昨年の10月にやっと病院が開院をしたわけでございます。地域の皆さんは無医地区を卒業できたわけでございます。非常に喜んでもらっておりますが、今後、先生の御活躍を願っております。

それで、市民病院の件でございますが、市民病院が移譲されることは決まっております。移譲に向けて、今後あと10カ月ばかりですか、その移譲のスケジュールと、法的ないろいろもあると思いますので、そのスケジュールはどうなっているのか、ちょっとお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁の前に、この中川内医院なんですけど、非常に今地元の皆さんたちから感謝をされています。私は、古川盛義議員がもう3年、私が出会ったのは3年前ですけども、これは絶対無理だというふうに思っておりました。しかし、やはり議員のあくなき根性といいますか、粘り強いというか、しつこいというか、それはともかくとして、そういうもろもろの総合力の結果、私はあの医院が武内に来てくれたと。これは私、本当に議員の力というのを改めて感じました。そういった意味で、私はこの中川内医院さんと、ここは1次医療が中心ですので、武雄市民病院と病診連携、病病連携をきちっとやっていく必要があるだろうということを思っております。

そういった意味で、私は、移譲後の病院のあり方といたしましては、市医師会、移譲先医療法人を構成とする協議会、今もう準備会、あるいは担当者会をやっておりますけれども、設置をして、市民病院の移譲に伴う諸課題について協議を開始させていただきたいというふうに思っております。移譲先との契約については、協議会との議論を踏まえつつ、移譲後の病院の診療方針、移譲条件の担保及び履行、4疾病5事業などの取り決めに関する覚書書を締結したいというふうに思っております。土地、建物などの資産の譲渡に関する契約については、平成21年度予算が可決後、締結の時期等についてはまた検討したいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

先月の佐賀新聞を見よったわけでございますが、25日やったですかね、武雄の市民病院の清算に12億円かかるという記事がございました。企業債が11億円、退職金が4億円、赤字が1億円で16億円となって、建物と土地の売却、約4億円を引いて12億円になるんだということでした。

21年度の予算で、固定資産の売却、土地、建物の売却は収入として計上してありますが、病院の資産というのはそれだけじゃないわけです。減価償却残というのが企業会計上、計上されておりますが、その中には減価償却が終わって残存価値5%、10%で計上してあるやつ

も含まれておると思うんですが、減価償却がまだ完全に済んでいないものもあると思います。それで、この減価償却の残というのは、帳簿上の、会計処理上の問題でありまして、その残がすべて価値、現在価値、販売価値を示すものではないということはわかっておるんですが、医療機器や備品類、高価なものが医療機器にはあると思いますが、そこら辺どのようなものがあるか、残存価格なり教えていただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

機械・備品類につきましては、移譲先が希望される場合には譲渡をするということにいたしておりますけれども、今回の当初予算につきましては、土地、建物、それから構築物につきまして計上させていただいているというところであります。

御質問の機器類の中で高額のものとはどのようなものがあるかということでございますけれども、大きなものとしましては、X線の断層撮影装置——CTですね、それから高精度デジタル画像読み取り装置等々ございまして、そのほか手術機器、あるいは検査の機器等々がございまして、全体として21年度予算にはおおむね2億円程度の残存価格、いわゆる簿価を載せているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

2億円ほどあるということでございますが、その処分についてはどのようにお考えしておられますか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

繰り返しになりますけれども、機械・備品類につきましては移譲先が希望される場合に譲渡をすると、売買契約を行うということになろうかと思っておりますけれども、必要とされない場合につきましては、これは処分をするということになろうかと思っておりますので、例えばインターネットオークションとか、いろいろやり方はあると思っておりますので、そうなった場合にはいろいろ検討をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

まあ、ひょっとしたら減るかもしれないということでございます。市長は、清算金については一般会計に影響がないようにしたいということも申されております。池友会の病院がとに

かく大繁盛をしていただいて、武雄市としては法人市民税ががっばり入ることが一番望ましいのではなかかなと私は思います。

次に参ります。

武内はもちろんでございますが、武雄市内も高齢化が進んでおるわけでございます。住民票をもらうにも武内から武雄まで来こんばいかんですね。それで、今は車の運転ができる。しかし、免許がもらえんごとなったとき、更新ができんごとなったらどがんしようかと心配しておられる方がいらっしゃいます。

そこで、高齢化対策と周辺部対策を絡めて、住民票などの自動発券機というのですか、そういうふうなものを各公民館、支所あたりに置いていただくわけにはいかないかと思ひまして、お尋ねでございます。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

まず、地区に自動交付機を置くということになりますと、住基カードの発行が必要となりますけれども、一応今現在のところ、住基カードの発行枚数は659枚、2月に無料化しまして2月の時点で82枚出ております。これは確定申告等に使うということで多く出ているかと思ひます。

それから、高齢者の住基カードは身分証明書がわりになるわけですがけれども、本庁のある武雄町と支所のある北方、山内を除きまして、月平均、大体6町で170件の申請があつております。町で割ると20件ずつの申請ということですね。これを考えますと、費用対効果でございますけれども、佐賀県内では佐賀市が4台設置しておるそうでございます。本庁に3台、それからエスプラッツに1台ということで、佐賀の場合は自分のところで開発しておりますので安く上がっておりますけど、佐賀市の場合のシステムを取り入れますと、当初機器とかそういう整備で5,740万円、それから運用費ですね、年間の維持費が460万円かかるそうです。

それからもう1つ、地方自治情報センターのシステムというのがありますけれども、これは宮崎市、出雲市あたりが利用しているシステムでございますけど、武雄の場合に直しますと初期経費が1億4,000万円、それで運用費が1,100万円ほどかかるということになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

この高齢化対策、周辺部対策として考えたときに、5,600万円ぐらいが初期投資として要

るということですが、それが高いか安いかは、その判断をするところでございますが、今すぐは無理だということなんでしょう。そしたら、もう少し金のかからない発行の仕方というのを模索すべきではないかと、住民サービスをするべきやないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

住基カードの普及が伴えば、必然的に自動発行というのも考えていかなければならないと思います。今のところ考えられますのは、市役所には動く市役所制度というのがあります。当初、したところは39件だったと思います。それが今現在75件、市民課のいろいろなところ、部署がありますので、その辺の普及を努めたいと思っております。これにつきましてはPRをまたやって、どんどん使ってもらえるようにお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

補足いたします。

まず、動く市役所制度については、65歳以上の方々が電話一本で、例えば印鑑証明であるとか、住民票を御自宅にお届けをするという制度であります。本格的に行っているのは、日本で武雄が最初であります。思った以上にだんだん広がってきておりますので、この場をかりて、ぜひ市民の皆様方には御活用、かわいがっていただきたいというふうに思っています。これについての広報は、先ほど部長が申し上げたとおり、これからまたふえてまいりますので、市報等できちんとまた広報したいというふうに思います。これが1点です。

もう1点が、やはりまだ議員おっしゃったようにコストが高いんですね。ですので、お隣の韓国が今どうなっているかという、もう自宅で今、住民票、あるいは印鑑証明が取れるようになっているんですね、インターネットとかセキュリティーの関係で。それは、佐賀県庁と共同して研究会が今ありますので、そういった意味で、私はもう、だんだんあと五、六年もすれば、そういう役場とか役所とか、あるいは公民館に行かずとも自宅で取れるというぐらいに今スピードが早くなってきていますので、そういったことも研究会等にきちんと入って、その果実をきちんと受け取りたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、議員と考え方の方向性は一緒であります。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

動く市役所、聞いたことはあったんですが、どういうことなのか私もよく知りませんで、

申しわけないこととございます。ひとつPRをしっかりしていただいて、とにかく利用者がふえるようお願いをしておきます。

それから、教育問題で、給食の問題をちょっと取り上げてみたいと思います。

昨年から物価が上がりまして、学校給食が大変な状態であるということは聞いておりました。今4月から値上げをされると聞きましたが、どれくらいの値上げになるのか。それから、負担するのは御父兄さんたちでございますので、御父兄さんたちに説明はどうされたのか。そして、十分な御理解が得られてからなのか。そこら辺を御答弁いただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育部長

**○浦郷教育部長〔登壇〕**

今議員が質問の給食費の値上げにつきましてでございますけれども、今年の4月から市内を、今までは旧1市2町で違っておりましたけれども、統一をして、小学校は月4,100円、中学校は4,700円に値上げをお願いしているところでありまして。大体月200円から300円の値上げということになっています。その値上げの主な理由は、先ほど言われましたように食材費の高騰等、それから米飯給食を週1回ふやす、こういうのが主な理由でございます。

値上げにつきましては、昨年の10月から学校栄養職員等による調査検討、それから12月、校長、PTA会長等で趣旨を説明いたしまして、武雄市の教育委員会で審議をしていただき、1月に各学校、給食センターの給食運営委員会に諮問をいたしまして協議、そして、値上げ検討結果を1月末をもって保護者あてに趣意書という形をお願いをしたところでありまして。できるだけ、やっぱりきちっとした説明をということでやったつもりでありますので、よろしく願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

古川議員

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

値上げの件は、そういうふうにして説明をしていただいて御理解は得られているということです。

もう1つ、これはある中学校で聞いた話なんです、給食時間を5分間延長したら残菜がほとんどなくなったと。残りがないと。全部食べるということですね。そしたら、今までどうだったのかといいますと、相当数残りよったということでした。それで、武雄市内の給食の残菜調査とか、それから残菜の処分はどのようにされておるのか、お尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育部長

**○浦郷教育部長〔登壇〕**

今年の2月に残菜の調査結果をしておりますけれども、幸い武雄市内の学校では、2月に

限ったところだけを言えば残菜ゼロという学校も2校ございました。市内平均をいたしますと、小学校で1日平均1,439グラム、中学校で752グラムが残菜として出ているということでございます。当然のことながら、給食の指導の中で残菜ゼロというものを目指し、そのためのおいしい給食調理をしていただくと同時に、そういう指導もやっているところであります。

それから、残菜の処理方法でございますけれども、生ごみ処理機での堆肥化の部分が大体5校。それから、民間の引き取り業者等で3校。それから、量が少ないところにつきましては、生ごみのコンポストボックスによって回収をして、ごみの収集車のほうに出しているという状況でございます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

古川議員

#### ○7番（古川盛義君）〔登壇〕

心配しておったんですが、武雄市内では少ないと。1,400というぎ、ほんなちょこつとですもんね。1,400グラムでしょう。1,400グラムというぎ、ほんのちょこつとですもんね。安心しました。もっと余計あるのかなと私は思うとりましたが、それくらいやったら、いいということはないでしょうけど、ゼロを目指して頑張っていたいただきたいと思います。

そこで、武雄市内の子どもたちが健やかに育つように頑張っていたいておるんですが、これはちょっと答弁は要りませんので、ちょっと聞いてってください。こいば言うぎ長うなっけん。

米です。今、佐賀県の給食界から、佐賀県産の米が多分来よっです。ずっと来よるんです。佐賀県は、給食に対する地産地消の割合は全国一だそうです。一番多いんだそうです。ですが、もうそろそろ、ぼちぼち、武雄産の米を給食に使うてもよかとやなかかと。以前も私、まだ早かて言われたけん言いよらんとですけど、今はそう思います。そして、武雄産の米を食べて、武雄はよかとこばいと、やっぱり市長がごつとと言うごと、子どもたちにそう植えつけんばいかんとやなかかと思ひます。佐賀県産もよかですよ。それはもういっちょん構わんとです。だけど、郷土愛というのは、郷土の、自分の地元でとれたものを食べて生まれるんじゃないかと私は考えております。教育長も、教育部長も、非常に教育に熱心な方でございますので、多分近い将来、検討いただくだらうということを期待しまして、一応提案としておきます。

それで、昨年、私、若木の川内に上ったんでございます。それで、川内に上ってレモングラスを買いよんさつとを見たとです——一昨年ですね。そいぎ、「レモングラスを植えとつたらイノシの入らんばい」と言われて、去年実は、本当かうそか、わからんもんじやと思ひながら、レモングラスを私の田んぼの土手にずっと植えたとです。そいぎ、イノシシが来ませんでした。これはもう不思議でした。1年やったばかりですので、次の年、なれて

どうなるかわからんですけどね、それはもうわかりませんが、去年は来ませんでした。それで、レモングラスの商品化は九州大学と連携してやるということを聞いております。イノシシが好かん、寄りつかんごた葉ばひとつ開発もあわせてお願いしたい。

それで、さきの議会でイノシシが武雄市内に3万頭おると言んさったですね。（「4万」と呼ぶ者あり）4万やったですか、ありゃすみません。それで、1,500頭とれよって……（発言する者あり）3万か4万。そいぎですよ……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かにしてください。

○7番（古川盛義君）（続）

そうしたら、4万頭としましょう。1,500とれているわけですね。すると3万幾ら残るわけです。ことしは、ひょっとすれば武雄市内の人口よりふえているのかなと思ひようわけです。ふえとうとやなかろうかなと思ひわけでございますが、イノシシの駆除対策はどのように考えておられるのか、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

年間のイノシシの駆除の頭数が出ておりますけれども、先ほどの1,500頭というのは、あくまでも駆除期間の、武雄でいえば7月から10月までに1,500頭程度ということで、その後、11月から3月までが狩猟期間ですから、その期間も大体、県のデータでいけば大体同じぐらいですから、年間3,000頭ぐらい捕獲がされているということでございます。

それと、駆除の方法でございますけれども、今のところは、いわゆる防止ですね、結局イノシシが入ってこんなような、電気さくとか、あるいはワイヤメッシュとか、そういうことで今対策はされています。これについては、新年度は特に国の補助事業を利用して、今、市内の各地区のほうから相当要望も上がっておりますので、そこらについては対応していきたいということでございます。

それから、先ほどの大学等の研究によってしたらどうかという話ですけれども、佐賀大学のほうにちょっと問い合わせたところ、そういう専門の先生はいないということで、今のところ、県のほうで佐賀県農業技術防除センターというのがありまして、今現在、その方の助言をいただいてやっております。そういうことで、ことしは特に新年度で市長のほうから研究費ということで10万円予算化しますので、そこら辺で対策をやってみたいと考えています。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

ありがとうございました。イノシシがなるべく来んようにということで、実は山を手入れ



すれば山に戻ってくれるという話を聞くわけでございます。それで、結局今、平成3年の台風ですか、その後放棄して、倒れたまんま置いて荒れ放題の山がたくさんあるわけでございます。その山を、森林をです。少しずつちゃんとした森林に戻していけばどうなのかなど。全く下草が生えていない山とか、間伐も何にもされない山、手入れが何にもされない山というのは市内にたくさんあります。私も、実を言いますと、そういうふうに山林をさせておるわけでございます。今、言いながら非常に後ろめたい思いをしよるわけでございますが、（「せんば」と呼ぶ者あり）はい。それで、そういう山林の手入れをしない放棄山、森林と申しますか、そういうのが多い状況を当局としてどのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

森林の機能といいますのは、水源の問題とか、あるいは災害、土砂流出防止、それから、最近では地球温暖化防止、それから循環型社会に対する資源とか、そういういろんな機能があるわけですが、最近、議員申されますように相当森林が荒れております。そういうことで申告な状態だと考えています。

それで、うちのほうで調べた内容ですが、現在、森林の面積が1万ヘクタールございまして、そのうち間伐が必要なところが3,300ヘクタールほどありまして、実際間伐をしているところが年間155ヘクタールということで、まだ5%、10%以内の実施状況ですから、今からそういう問題が課題だというふうに考えます。

**○議長（杉原豊喜君）**

古川議員

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

森林というのは、地球温暖化や二酸化炭素の減少というのに非常に役立つということでございます。そこで、森林の整備をするときに種々の補助事業があると考えられますが、そういう補助事業というのはどのような補助事業があるのか、教えていただきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

補助事業はいろいろありますけれども、まず国の補助事業の制度を申し上げますと、今現在うちのほうでも取り組んでおりますけれども、まず森林を守る交付金事業というのがあります。これについては、森林の荒廃を防ぐために計画的に森林整備を行うということで、内容的には森林の境界を明確にするとか、あるいは歩道、作業道、除草、補修、そういうのに使うということで、これについては森林の施業計画が策定をされているところで、活用をし

ております。

それからもう1つは、里山エリア再生交付金というのがありまして、これにつきましては特に過疎化、高齢化、そういうことで地域の活力が低下をしておるとい状況の中で、造林事業とか、あるいは森林の手入れを行う事業でございまして、これについては植栽、下刈り、間伐、枝打ち、そういう事業に活用しております。そのほか県のほうでもいろいろされております。

それからもう1つは、今県のほうで佐賀県森林環境税というのを徴収されております。これについては、個人でいけば、県民税の均等割に500円を上乗せして取る税金でございますけれども、これについては3つほど事業がありまして、まず荒廃森林の再生の事業、それから重要な森林の公有化に対する支援、それから県民参加の森づくり事業ということで、この3つの事業に充当をするような事業でございます。これについては、20年度から24年度までの5カ年という事業になっております。

それからもう1つ、これについては各地区で利用されているさが緑の基金助成事業ということで、これは募金による、それを原資に各地区の緑化事業に充てていると、こういうふうな事業がございます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

古川議員

#### ○7番（古川盛義君）〔登壇〕

金がかからずに森林整備に取り組めるよう、また希望の持てる林業、すばらしい森林整備ができるようお願いをいたしておきます。

武内にも、きょうこれはいただいたんですが、この5月号なんです、ちょっとこれを見ていただきたい。平成5年に設立されました武内森林会というのがあります。5月号にでかど載っとるんですが、今会員が21名で、森林の手入れとか林道の整備とかいろいろやっていただいておりますが、その合言葉が「ウィーラブフォレスト」ということでございます。

林業も農業も非常に大変な時期でございます。これをやっておる人が大体みんな周辺部の方々でございます。周辺部の皆さんに元気がなければ武雄の発展はないと私は思います。それで、今後武雄が発展しようと思うたら、周辺部の皆さんに活力が出るような施策をしていただいて、そして周辺部の方は、結局まちで使わんと、武雄のまちはよそからばっかい呼びよったって発展せんわけです。ですから、まず地元で、さっき給食のときも地産地消と言いましたが、そういう理念を観光、いろんな面に利用しまして武雄が発展することを願ひまして、私の一般質問を終わります。